

EA21環境経営レポート

【活動期間：2022年4月～2023年3月】



地球に優しい
NO-DIG総合エンジニアリング企業
掘らない・壊さない・環境にやさしいを追求する
インフラ設備のトータルソリューション



(第13版)

2023年10月3日

アイレック技建株式会社

目次

1. 会社概要	1
2. 登録の範囲	2
3. 環境経営方針	3
4. 実施体制	4
5. 環境経営目標	7
6. 環境負荷の実績（過去3年間）	11
7. 環境経営活動の取組み（2022年4月～2023年3月）と評価及び次年度の取組み	13
8. 地域社会との共生及び環境関連情報の公開による社内外コミュニケーション	30
9. 環境関連法規の遵守【環境関連法規の違反・訴訟等の有無】	31
10. 代表者による評価と見直し・指示	32

1. 会社概要

アイレック技建は、“地球に優しいNO-DIG総合エンジニアリング企業”として、非開削推進（エースモール）事業、非破壊探査（エスパー）事業、点検・リニューアル事業及び環境計測事業を4本柱として技術・商品開発に取り組み、『掘らない、壊さない、環境に優しいを追求する社会基盤設備のトータルソリューション事業』を展開しています

会社名	アイレック技建株式会社		設立	1987年6月23日
代表	代表取締役社長 佐野 晃之		資本金	1億円
所在地	本店	〒111-0034 東京都台東区雷門1-4-4 ネクストサイト浅草ビル Tel : 03-3845-8109 Fax : 03-3845-8119 URL : https://www.airec.co.jp E-mail : airec@airec.co.jp		
	支店等	北海道、東北、西日本営業本部、東海、中国、四国、高松、九州、茨城		
環境管理責任者	企画総務部長 古川 智章			
担当者	企画総務部課長 富田 利文 、企画総務部 高取 千絵 、安全品質管理部 田中 祥乃			
事業内容	<ul style="list-style-type: none">①小口径推進機エースモールのレンタル及び施工②地下埋設物探査装置エスパー等のレンタル及び技術指導③管路マンホール診断・補修機器（PC/WJ、ケーブル撤去、MH首部補修等）のレンタル及び施工④設計コンサルティング[通信管路設計]⑤非破壊探査（地中埋設物・空洞調査、構造物調査等）⑥環境エンジニアリング（LED照明等）⑦建設材料及び建設物品の販売			
許可登録	建設業 国土交通大臣許可（特-3）第14138号 （土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、電気工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、電気通信工事業） 建設コンサルタント登録 建04第4984号（道路部門） 測量業 登録第（6）-24904号			
社員数	163名（人材派遣社員含む）【2023年7月1日現在】		事業年度	2022年4月～2023年3月

2. 登録の範囲

本店及び本店以外の全事業所（10事業所）における業務並びに従業員を対象とする

アイレック技建(株)本・支店（EA21 対象全事業所）	
本店	〒111-0034 東京都台東区雷門1-4-4ネクストサイト浅草ビル6、7、8 F Tel : 03-3845-8109 Fax : 03-3845-8119
北海道支店	〒063-0823 北海道札幌市西区発寒3条6丁目1-10NTT発寒ビル1 F Tel : 011-662-8109 Fax : 011-676-5105
東北支店	〒984-0022 宮城県仙台市若林区五橋3-2-1NTT五橋第2ビル3 F Tel : 022-213-8109 Fax : 022-261-8119
西日本営業本部	〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-22-17江戸堀イーストビル2 F Tel : 06-6443-8109 Fax : 06-6441-8119
東海支店	〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1-13-8アーバンネット布池ビル4 F Tel : 052-935-8109 Fax : 052-932-8119
中国支店	〒734-0004 広島県広島市南区宇品神田3-12-11宇品神田ビル Tel : 082-253-8109 Fax : 082-505-0080
四国支店	〒790-0808 愛媛県松山市若草町3-6NTTコムウェア松山ビル5 F Tel : 089-986-8109 Fax : 089-933-9747
四国支店 高松ロケ	〒761-0301 香川県高松市林町2217-15香川産業頭脳化センタービル401 Tel : 087-814-7109 Fax : 087-814-5109
九州支店	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1-7-22第14岡部ビル5 F Tel : 092-415-1415 Fax : 092-415-1416
非開削推進事業本部 第二技術部	〒300-2657 茨城県つくば市香取台B47街区16 Tel : 029-896-3700 Fax : 029-896-3705
非開削推進事業本部 第二技術部 (島名倉庫)	〒300-2655 茨城県つくば市島名501番地 Tel : 029-828-7716 Fax : 029-828-7717

3. 環境経営方針

【 基本理念 】

アイレック技建株式会社は、非開削推進（エースモール）、非破壊探査（エスパー）に関わる事業サービスの提供と共に、これらに関わる先端技術の開発・実用化を推進し、さらに点検・診断・リニューアル技術及び環境・計測技術を展開するNO-DIGエンジニアリング企業として、インフラ社会基盤設備の長寿命化に寄与することに強みを発揮し、当社の事業が地球環境保全に貢献するよう、継続的に環境保全活動に取り組みます。

【 基本方針 】

- (1) 環境保全への取組みを企業経営の最重要課題の一つとして位置付け、企業活動の全ての領域で環境保全の向上に取り組めます。
- (2) 当社の企業活動に関わる全ての環境関連法規を順守します。
- (3) 事業活動に伴う環境負荷に対して、環境目標及び環境活動計画を作成して、環境保全に貢献します。
 - ①省資源・省エネルギー
 - ②廃棄物排出量の削減・再資源化
 - ③グリーン購入の推進
 - ④非開削推進、非破壊探査、点検・診断・リニューアル及び環境・計測技術による省エネルギー及び廃棄物排出量の削減
- (4) 地域社会との共生を図り、社会貢献活動に協力するとともに、環境関連情報の公開により社内外とのコミュニケーションを図ります。

この方針は公開するとともに、アイレック技建株式会社の全社員の周知徹底します。

2023年6月14日

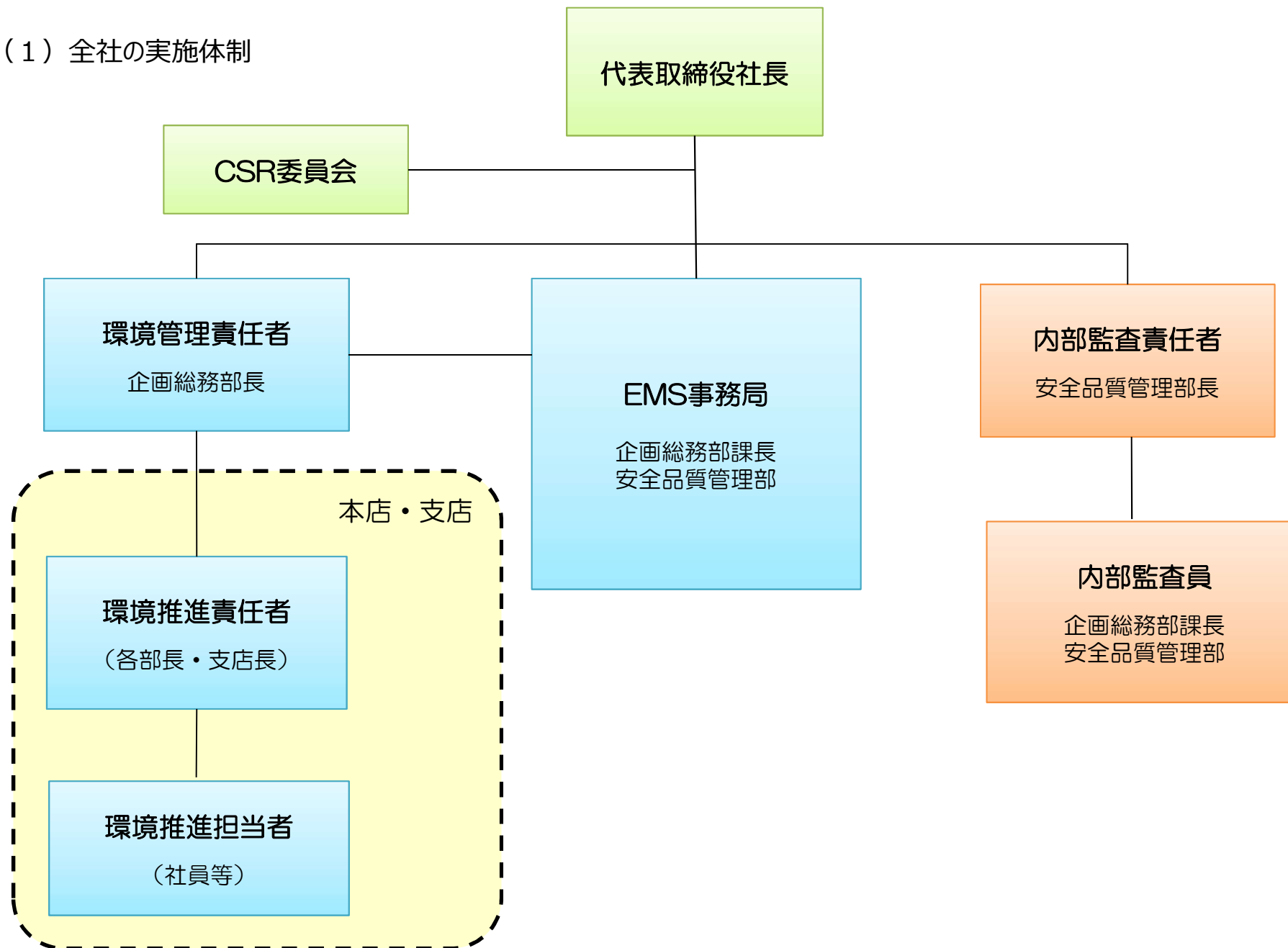
アイレック技建株式会社

代表取締役社長 佐野 晃之



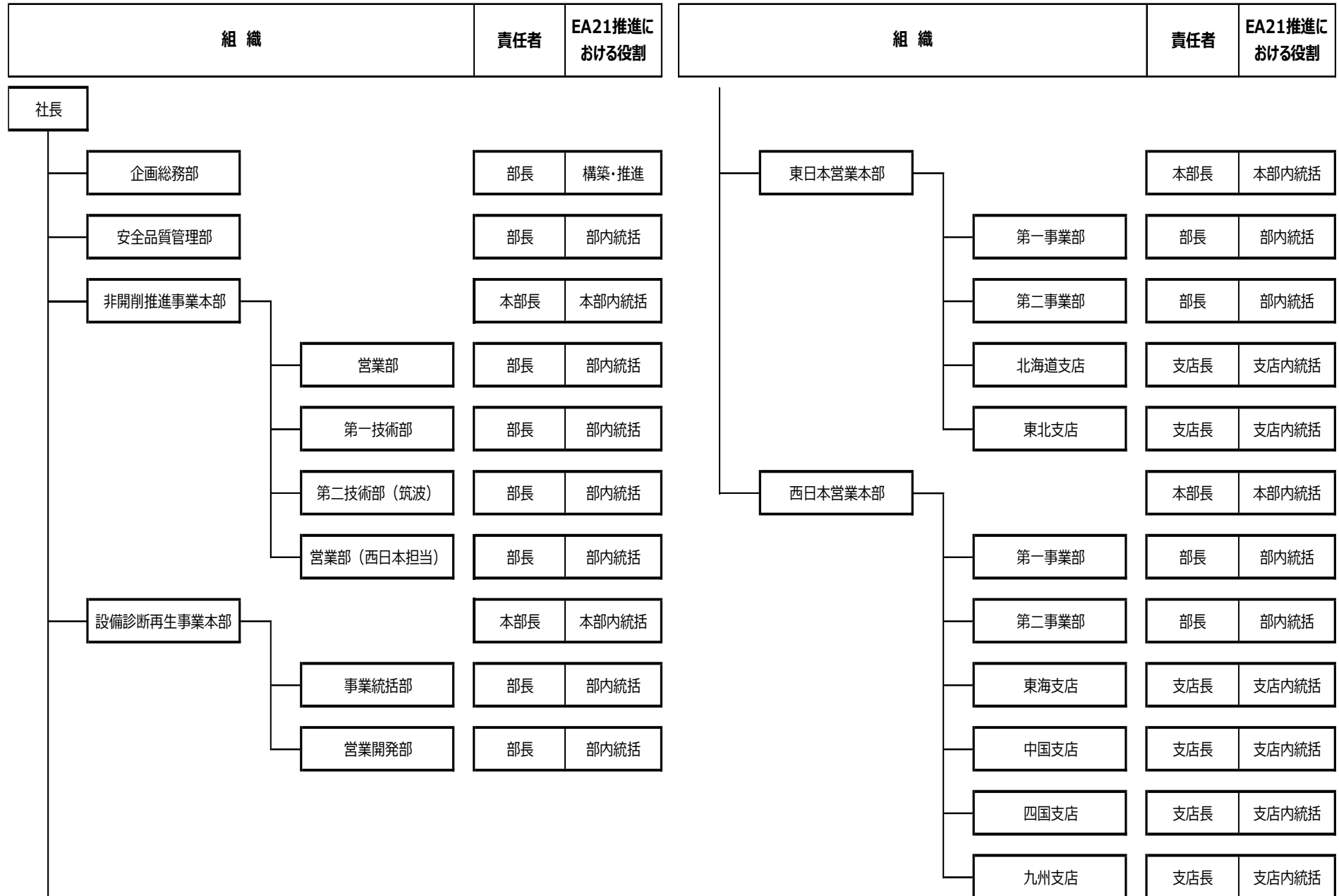
4. 実施体制

(1) 全社の実施体制



組織	職位（役割・責任）
代表取締役社長	EMSの最高責任者
CSR委員会	会議メンバー：社長、企画総務部長、各本部長、安全品質管理部長 （議長：企画総務部長（環境管理責任者）） 【EMSに関する事項、進捗状況、成果を審議する組織】
内部監査責任者	安全品質管理部長 【内部監査に関わる計画、実施及び報告の責任者】
内部監査員	企画総務部課長、安全品質管理部 【内部監査を行う監査員】
環境管理責任者	企画総務部長 【EMSの構築、推進をする責任者】
EMS事務局	企画総務部課長、安全品質管理部 【全社におけるEMSの構築・推進】
環境推進責任者	本店各部長、各支店長 【各組織におけるEMSの構築・推進及びEMS事務局に実施結果を報告する責任者】
環境推進担当者	本店、支店におけるEMS推進者 【環境推進責任者を補佐し、各組織におけるEMSの構築・推進】
社員等	社員、契約社員、準社員、派遣社員 【EA21ルールに基づき運用】

(2) 各組織（部・支店）の実施体制



5. 環境経営目標

(1) 2022年度環境経営目標

全社取組目標	NO	項目	数値目標	具体的な取組
	1	二酸化炭素排出量の削減	2019年度比2%減	
	2	電気使用量の削減	2019年度比1%減	<ul style="list-style-type: none"> ・昼、残業時等不要箇所の消灯徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推進 ・再生可能エネルギー導入後の効果検証（つくば）
	3	化石燃料（ガソリン）使用量の削減	2019年度比2%減	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの徹底、環境適合車両導入（リース更改時） ・WEB会議の導入による移動の負担を減らす
	4	事務用紙の削減	2021年度比同等	<ul style="list-style-type: none"> ・書類保管の電子データ化の推進
	5	廃棄物処理法及び建設リサイクル法遵守	—	<ul style="list-style-type: none"> ・電子マニフェストの推進 ・建設リサイクルの推進
	6	エコ検定の取得促進	環境推進責任者の保有率100%を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者の把握、共有 (2022.3現在 27名/全社、1名/環境推進責任者)
	7	CO2排出削減貢献量を、2030年までに自社排出量の100倍以上にする	エースモール：14000 t -CO2 エスパー：12000 t -CO2	<ul style="list-style-type: none"> ・業績、売上UPによる貢献量を増やしていく

組織名	取組目標
非開削推進事業本部（本店）	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ時の資料電子化 ・紙の両面印刷 30%以上 NUP 印刷 8%以上 達成 ・マシンレンタル契約のWEB化
設備診断再生事業本部	アイドリング時間の削減 2021年度比▲45%
東・第一事業部	化石燃料（ガソリン）使用量 2021年度比▲20% <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離現場では、極力現地でレンタカーを調達し、移動は公共交通機関を使用する。 ・2022年12月に車検切れとなる車両をEV車に変更する。
東・第二事業部	エスパー調査によるCO2削減貢献量 3,000t
非推本・第二技術部	電気使用量の削減 対前年比▲1%
西日本営業本部（非推本営西 含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ印刷（両面、N-up）割合の増加（2021年度比+5%） ・一般廃棄物量（シュレッダー袋、SSBOX）の削減（2021年度比▲5%）
北海道支店	ガソリン使用量 2021年度比▲4%
東北支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2021年度比▲5%
東海支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2019年度比▲2% <ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの徹底、かもしれない運転、十分な車間距離確保により、安全運転&エコ運転を励行する。 ・公共交通機関の活用、遠方は公共交通機関+レンタカーの活用をする。
中国支店	紙の使用枚数削減 2021年度比▲7%
四国支店	紙の使用枚数削減 2021年度比▲5%
九州支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2021年度比▲2%
企画総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務実施率 目標20% 再チャレンジ ・勤務票のペーパーレス化を全社展開 ・管理者のエコ検定取得
安全品質管理部	リモート研修等実施によるCO2排出削減に貢献する。（目標：▲440kg-CO2）

組織別取組目標

(2) 中長期環境経営目標 (2020年度～2030年度)

《 アイレック2030 》



低炭素化している未来

- 私たちは社会のCO2排出削減貢献量を自社排出量の100倍以上とします



地球に優しい未来

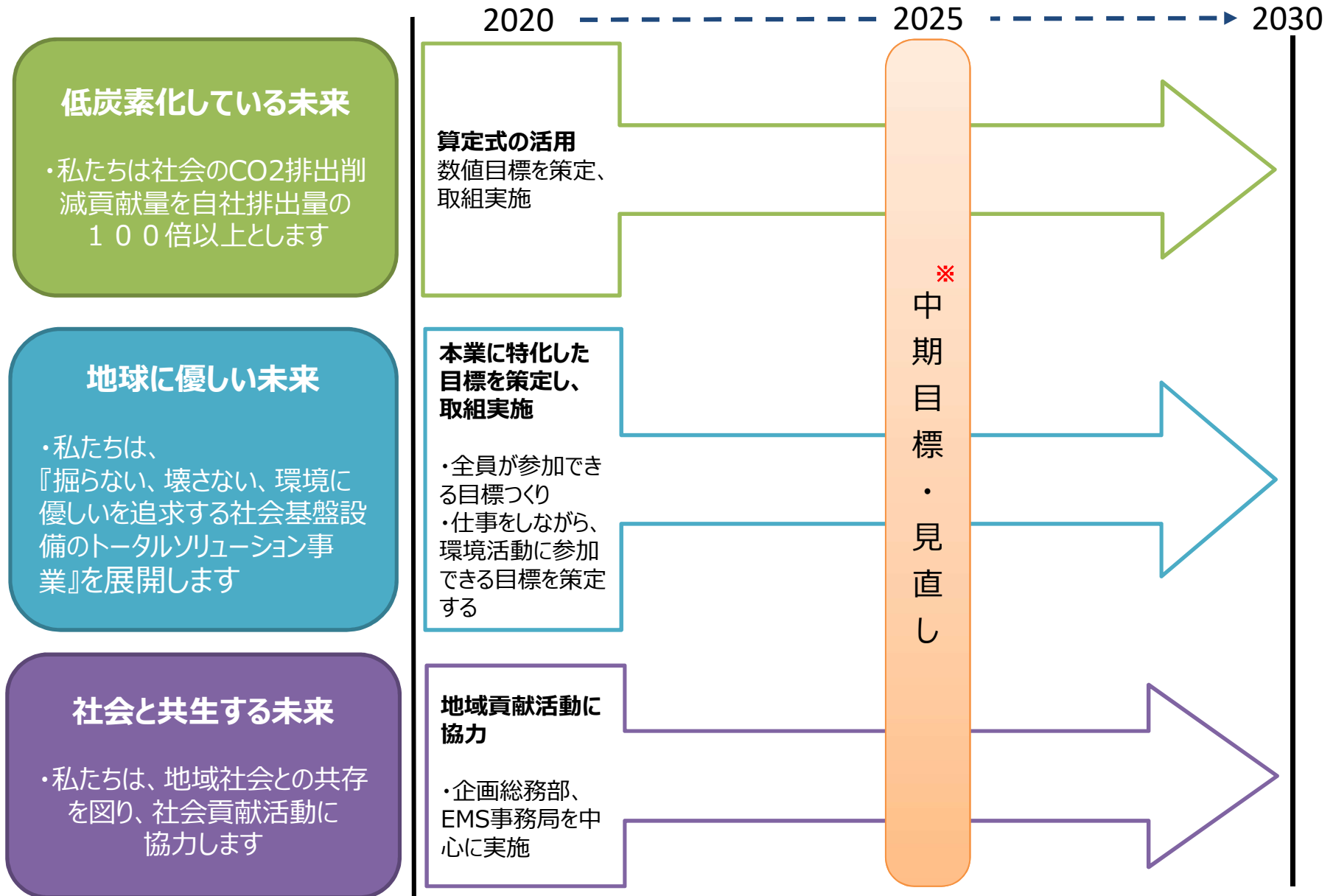
- 私たちは『掘らない、壊さない、環境に優しいを追求する社会基盤設備のトータルソリューション事業』を展開します



社会と共生する未来

- 私たちは、地域社会との共存を図り、社会貢献活動に協力します

« Road to 2030 »



※ 2020年度～2025年度中期目標 : 売上目標達成によるCO2削減貢献量アップを目指す。

6. 環境負荷の実績（過去3年間）

環境への負荷		単位	2022年度 (4~3月)	2021年度 (4~3月)	2020年度 (4~3月)	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素（注1）	Kg-CO ₂	251,717	270,089	287,808	
② 廃棄物排出量 及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	紙資源（シュレッダー・SSBOX）	t	2.33	3.41	4.32
		紙以外	t	2.69	2.96	3.21
	産業廃棄物	汚泥	t	91.24	82.57	109.14
		廃プラ	t	33.60	23.04	47.80
		木くず	t	1.67	3.46	0.00
		金属くず	t	0.00	0.00	5.65
		コンガラ	t	0.15	0.00	3.16
		Asコン	t	0.00	0.00	10.13
		コンクリート破片	t	0.00	34.72	0.00
		がれき（石綿含無）	t	0.59	0.00	0.00
		廃電気機械器具	t	0.00	1.00	0.00
		その他混合廃棄物(コンクリート)	t	0.00	0.00	1.46
		その他混合廃棄物(廃プラ・金属くず)	t	0.00	0.03	0.00
		安定型混合廃棄物	t	1.71	0.19	0.00
		建設混合廃棄物	t	0.00	1.50	0.00
		管理型混合廃棄物	t	0.00	6.12	0.00
		廃油	t	13.05	2.39	0.00
③-1 総排水量	下水道	m ³	907(計量可能分)	991(計量可能分)	991(計量可能分)	
③-2 水使用量	上水道	m ³	907(同上)	991(同上)	991(同上)	
	地下水	m ³	—	—	—	
④ 化学物質使用量	(キシレン、トルエン)	kg	0	0	0	
⑤ エネルギー使用量	購入電力（新エネルギー除く）	kwh	356,303	374,421	407,470	
	化石燃料	ℓ	33,182	37,645	38,291	

（注1） CO₂排出係数：2020年度電力係数代替値0.488kg-CO₂/kwhにより算出

環境への負荷		単位	2022年度 (4～3月)	2021年度 (4～3月)	2020年度 (4～3月)
⑥ 資源使用量	事務用紙	t	2.48	2.52	3.23
	プリンタートナー	本	63	51	67
	作動油	ℓ	6,160	3,240	6,400
	ギヤオイル	ℓ	640	520	640
	酸素	ℓ	24	0	8
	塗料（水性塗料）	k g	525	705	495
	クーラント	ℓ	620	400	700
⑦ 主要環境技術（注2） （CO2削減効果）	非開削推進工法（エースモール）	t -CO ₂	△10,300	△12,700	△13,700
	非破壊探査（エスパー）	t -CO ₂	△10,700	△7,900	△10,900

（注2）従来の算定よりも正確に把握するために、CO2原単位の算定を2018年度より変更。

- ・削減量算定方法 引用元：LCIデータベース IDEA version 2.2
 国立 研究開発法人 産業技術総合研究所
 安全科学研究部門 社会とLCA 研究グループ一般社団法人 産業環境管理協会

※IDEA… IDEAは(一社)産業環境管理協会よりリリースされているデータベースである。
 弊社で使用していた3EIDはマクロな評価をするのには向いているが、
 算定精度が低かった為、3EIDと比べて登録されている原単位の種類が多い
 IDEAを使用して 算定対象に合わせた正確な算定結果を得ることとした。

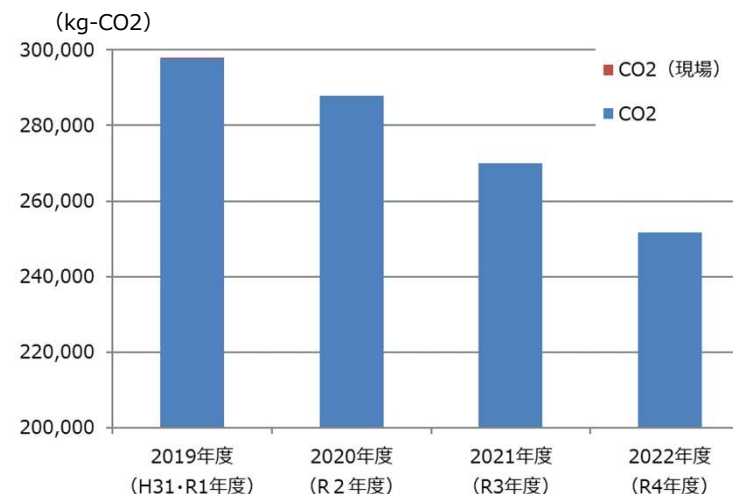
- ・4事業部のうち「非開削推進事業」と「非開削探査事業」の2事業部を掲載。
 「点検リニューアル事業」と「環境計測事業」については順次、算定ロジックを見直したのち掲載予定。

7. 環境活動の取組み（2022年4月～2023年3月）と評価 及び 次年度の取組み

(1) 二酸化炭素排出量（CO2）の削減

2022年度目標：2019年度実績対比 ▲2% ⇒ 対2019年度比 ▲16% 目標達成

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
CO2	297,781	287,808	270,089	251,717
CO2(現場)	179	0	0	0
合計	297,960	287,808	270,089	251,717



「二酸化炭素排出量内訳」

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
購入電力	kWh	388,034	407,470	397,836	404,879	
うち 再生可能エネルギー供給量（つくば）	kWh			23,415	48,576	
(再掲) 購入電力	kWh	388,034	407,470	374,421	356,303	
化石燃料	灯油	L	0	40	0	40
	A重油	L	0	0	0	0
	都市ガス	Nm ³	0	0	0	0
	液化天然ガス (LNG)	kg	0	0	0	0
	液化石油ガス (LPG)	kg	5	0	0	0
	酸素ガス	L	20	8	0	24
	ガソリン	L	46,159	37,786	37,510	33,132
	ガソリン(現場)	L	77	0	0	0
	軽油	L	510	465	135	339
	軽油(現場)	L	0	0	0	0

【要因】

- ・2021年度よりつくば工場にて再生可能エネルギーを導入。
- ・ガソリン使用量の減少

※ガソリン...
社用車+レンタカー+自家用車使用量

(2) 電気使用量の削減

2022年度目標：2019年度実績対比 ▲1% ⇒ 対2019年度比 4%増加 目標未達成

電気使用量(新エネルギー含む)

(kWh)

	2019年	2020年	2021年	2022年
第1Q	83,336	82,838	83,977	92,968
第2Q	111,607	112,896	105,678	118,796
第3Q	91,813	96,621	93,308	88,502
第4Q	101,278	115,115	114,873	104,613
合計	388,034	407,470	397,836	404,879

【要因】

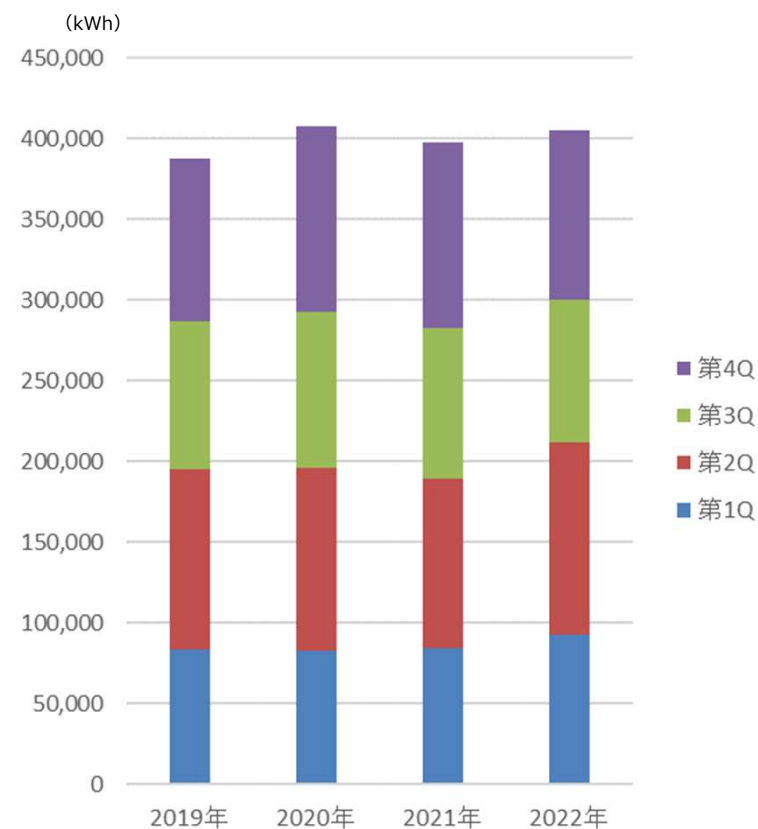
・つくば工場での検証実験などで2022年度は使用量が増加した。

《削減に向けた取組み》

【室内LED照明】



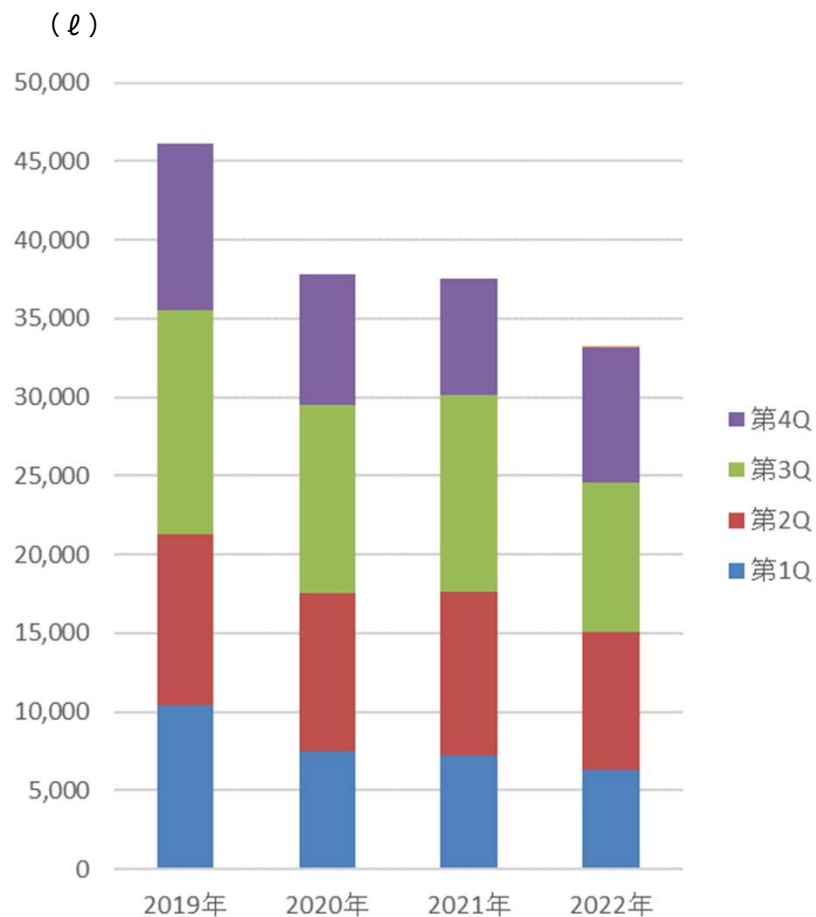
【不要時の消灯徹底】



(3) ガソリン使用量の削減

2022年度目標：2019年度実績対比 ▲2% ⇒ 対前年度比 ▲28% 目標達成

(ℓ)



	2019年	2020年	2021年	2022年
第1Q	10,440	7,507	7,225	6,334
第2Q	10,848	10,080	10,424	8,780
第3Q	14,210	11,926	12,497	9,477
第4Q	10,661	8,272	7,363	8,591
合計	46,159	37,786	37,509	33,182

「削減に向けた取組み」

- ①カーナビ最短ルートの設定
- ②エコドライブの推奨
- ③社用車の積載重量軽量化
- ④環境適合車導入
- ⑤ドライブドクターの導入



【要因】

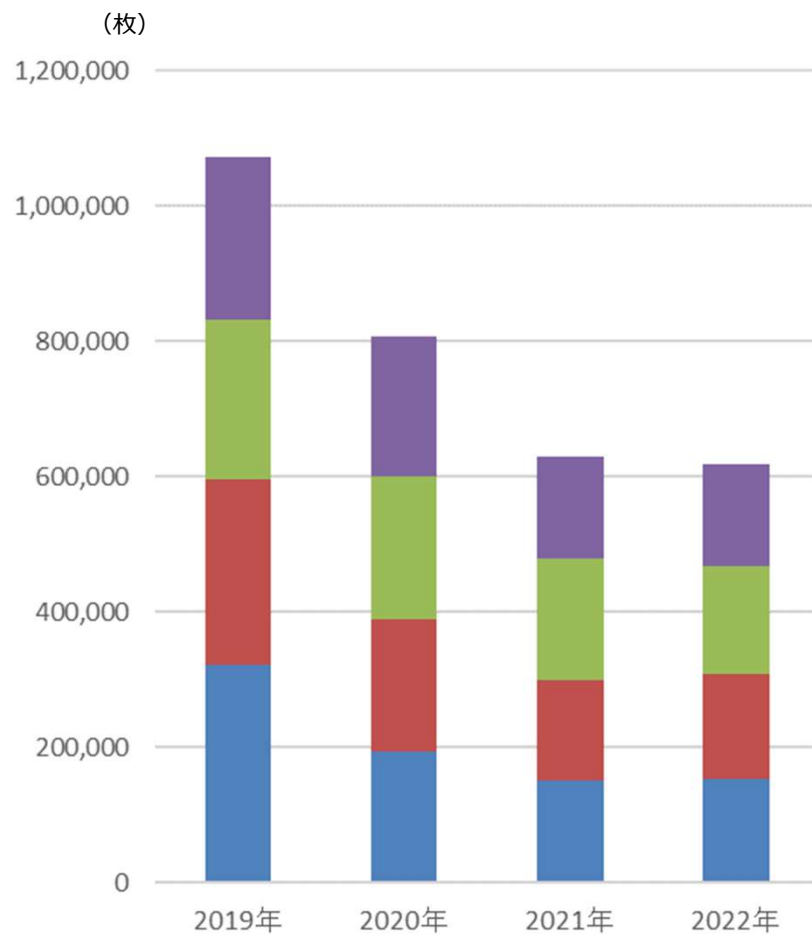
- ・リモート会議の利用、公共交通機関の活用など
- ・社用車の一部にEV車や環境配慮車への更改もあった。

引き続き、エコドライブ推奨と環境に配慮した車両への更改を実施していく。

(4) 事務用紙使用量の削減

2022年度目標：前年(2021)年度と同等 ⇒ 対前年度比 ▲2% 目標達成

(枚)



	2019年	2020年	2021年	2022年
第1Q	323,000	195,252	151,240	154,280
第2Q	273,000	195,134	149,314	154,272
第3Q	235,323	210,109	178,810	159,601
第4Q	241,790	206,351	150,650	151,217
合計	1,073,113	806,846	630,014	619,370

※ 2019年度第2Qまでは、「カウネットでの購入枚数」で集計をおこなっていた。
2019年度第3Qからは「複合機による使用実績枚数」へ集計方法を変更した。

「削減に向けた取組み」

- ① 集約印刷 (2up、4up)、両面印刷の励行
- ② 電子決裁の導入
- ③ ICTの活用…全国拠点間のTV会議の実施 等
- ④ 会議資料等はプロジェクター又はモニター使用の励行
- ⑤ 事務用紙使用枚数の集計データを関係者に送付し
毎月の使用実績の振り返りに活用

【要因】

- WEB会議等でのモニターの利用や電子決裁等を活用。
- エコ印刷(両面・NUP印刷)未実施者が月平均17名(2019年度)から15名(2022年度)と▲10%になったことから社員一人ひとりの削減への取組みと意識の向上がうかがえる。

(5) 廃棄物排出量の削減 及び リサイクル推進

2022年度目標： 実績把握

◆事業系一般廃棄物

《削減に向けた取組み》

- ・自治体ルールにより分別処理
- ・SSBOXによる紙資源回収・リサイクルの実施



廃棄事務用紙計量・回収箱 (SSBOX)

(t)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
シュレッダー	0.16	0.07	0.06	0.04
SSBOX	5.51	4.25	3.36	2.29
紙以外 (判明3ビル分)	4.14	3.21	2.96	2.69
合計	9.81	7.53	6.38	5.02

◆産業廃棄物

《削減に向けた取組み》

- ・関係法令の遵守
- ・作動油の有償譲渡及び再生利用による廃油量削減
- ・電子マニフェストの活用による適正処理

(t)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
産業廃棄物排出量	205.56	177.34	152.63	128.96
最終処分量	95.96	109.14	82.57	91.24

(6) 水使用量の削減

2022年度目標：実績把握

《削減の取組み》

- ・節水奨励、節水シール貼付
- ・当社単独の水道使用量を把握できる拠点が少ないが、全拠点において節水意識の向上

(m)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
水使用量 (本店、西日本、非推・第二)	1057	991	991	907

(7) 化学物質使用量の削減

2022年度目標：実績把握

- 使用化学物質をSDSで確認⇒
- ①作動油・・・非該当
 - ②クーラント（エチレングリコール）・・・非該当
 - ③塗料及びシンナー・・・2014.8月以降水性塗料に切り替え済

現在は該当する項目はないが、継続して管理する

(8) 事務用品のグリーン購入比率の向上

2022年度目標：実績把握

《削減の取組み》

- ・事務用紙は概ね環境配慮型を使用（古紙及び植林木パルプ等配合）
- ・グリーン購入については、コスト増の傾向を考慮し、可能な範囲で環境ラベル認定事務用品等の購入を推進する
- ・グリーン購入比率の継続管理を実施

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
グリーン購入比率	56%	45%	41%	40%

(9) 本業（4事業）における環境負荷低減技術

「非開削推進事業」「非破壊探査事業」「点検リニューアル事業」及び「環境計測事業」の各事業の推進により、温室効果ガス（CO₂）及び建設廃棄物等の環境負荷低減を図っている



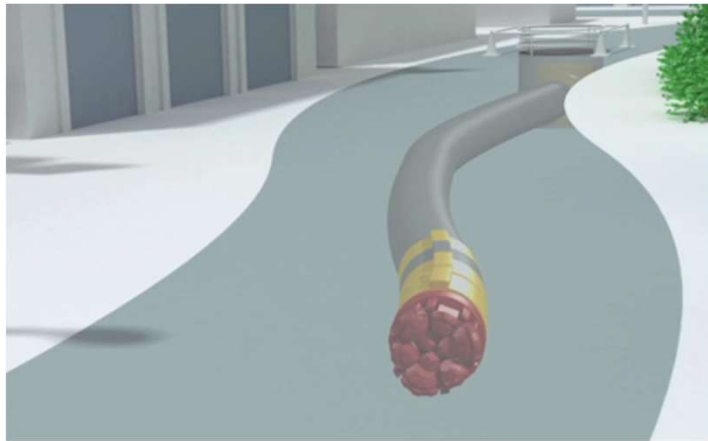
◆非開削推進事業

道路を掘削することなく社会基盤設備を構築します

【小口径推進工法 エースモール】



【改築推進工法 リバースエース】



《特長》

- ・玉石、岩盤を含む硬土質地盤に適用できます
- ・ユニークな位置検知方式と精密な方向制御機能により、長距離・曲線推進を実現します
- ・小規模立坑からの発進、到達が可能です

《2022年度CO2想定削減量》 △10,300 t -CO2

削減量算定方法 引用元:LCIデータベース IDEA version 2.2

国立 研究開発法人 産業技術総合研究所

安全科学研究部門 社会とLCA 研究グループ一般社団法人 産業環境管理協会

《サービス内容》

電気通信管路建設工事、上下水道建設工事、農業用水建設工事、電力管建設工事、ガス管建設工事、信号線建設工事、CATV管建設工事、熱供給管建設工事

◆非破壊探査事業

地面の中の埋設物や空洞を開削することなく調査をします



《特長》

電磁波法を用いることにより探査対象物の材質に影響されず、非開削での地下埋設物管調査、路面下空洞調査、遺跡探査等が可能

《2022年度CO2想定削減量》 $\Delta 10,700 \text{ t-CO}_2$

削減量算定方法 引用元:

LCIデータベース IDEA version 2.2

国立 研究開発法人 産業技術総合研究所

安全科学研究部門 社会とLCA 研究グループ 一般社団法人 産業環境管理協会



【i-Esper-R】



【ロードエスパー-3D】

◆点検リニューアル事業

安全で効率的な点検を実現し、既設設備を有効活用する非開削補修方法を提供します

(A) 管路点検診断

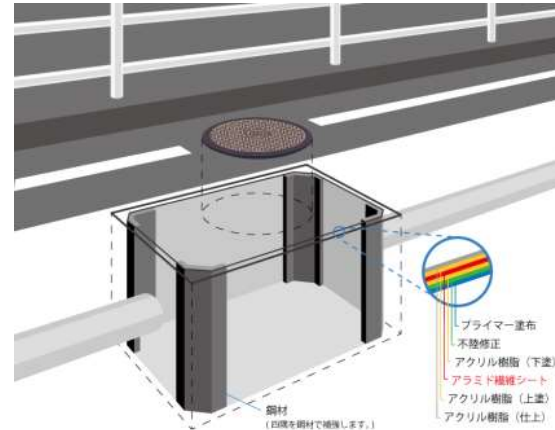


【小口径カラーハイビジョンスコープ】

《特長》

既設管路の有効活用を目的として、通信ケーブル多条布設を判断するための管路点検装置

(B) 構造物補修・補強 (MH・HH補強)



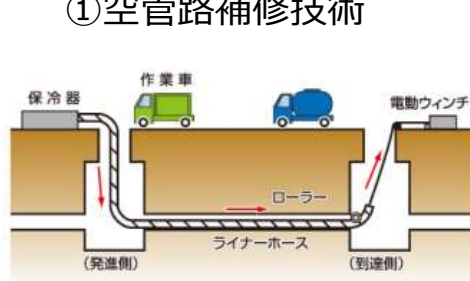
《特長》

アイマツ工法は路面荷重の改訂 (T-25) により、旧規格で施工された道路下コンクリート構造物の耐力不足を非開削により補強する工法で内面にアラミド繊維を貼付け、引張耐力を増加させます

- ◆老朽マンホールを再建可能
- ◆ケーブルが多い狭隘な状況でも施工可能
- ◆短期間で補強可能 (約4~6日)
- ◆撤去、再構築と比較して経済的

(C) 管路非開削補修

①空管路補修技術



【管路ライニング技術】



ライニング前



ライニング後

《特長》

「アイライナー工法 (厚膜タイプ)」は熱硬化性樹脂を含浸させたホースを管路内へ引込挿入し、既設管路内に滑らか新しい管路を短時間で形成し、老朽・弱体管路を更生します

②ケーブル収容管補修技術



【推進装置】

《特長》

ケーブル収容管補修技術 (PIT工法) は、ケーブルを収容したまま、ケーブルに影響を与えずに不良管路を再生し、新たなケーブル収容スペースを創出します

◆環境計測事業

環境負荷の軽減を図り、クリーンな環境を技術で守ります。



【トンネル用防水型LED照明】

《特長》

高湿度などの厳しい環境下での使用に耐えるLED照明
省エネに加え、長寿命のため玉交換の手間が大幅にカットできます

- ◆光を拡散させ、広範囲に均一な明るさで照らすことが可能
- ◆従来型40ワット蛍光灯と同等の明るさを実現
- ◆消費電力は蛍光灯の半分以下、寿命は4万時間
- ◆防塵防水性能はIP67で、厳しい環境下での使用にも耐久性が高い



(10) 環境経営活動取組目標に対する評価

(凡例)	評価欄のマーク
◎ 十分に達成	(125%以上の達成率)
○ 概ね達成	(概ね100%の達成率)
△ 未達成	(75~100%の達成率)
× 大幅に未達成	(75%未満の達成率)

全社取組目標	NO	項目	数値目標	具体的な取組	評価	取組結果について
	1	二酸化炭素排出量の削減	2019年度比2%減		○	2019年度CO2排出量：297(t-CO2) 2022年度CO2排出量：251(t-CO2) ▲16%
	2	電気使用量の削減	2019年度比1%減	・昼、残業時等不要箇所の消灯徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推進 ・再生可能エネルギー導入後の効果検証（つくば）	△	2019年度使用量：388,034(kwh) 2022年度使用量：404,879(kwh) +4%
	3	化石燃料（ガソリン）使用量の削減	2019年度比2%減	・エコドライブの徹底、環境適合車両導入（リース更改時） ・WEB会議の導入による移動の負担を減らす	◎	2019年度使用量：46,159(ℓ) 2022年度使用量：33,132(ℓ) ▲28%
	4	事務用紙の削減	2021年度比同等	・書類保管の電子データ化の推進	○	2021年度使用量：630,014(枚) 2022年度使用量：619,370(枚) ▲2%
	5	廃棄物処理法及び建設リサイクル法遵守	—	・電子マニフェストの推進 ・建設リサイクルの推進	○	法令に則り、適切に処理していた。
	6	エコ検定の取得促進	環境推進責任者の保有率100%を目指す	・合格者の把握、共有（2022.3現在 27名/全社、1名/環境推進責任者）	×	2023年3月現在 28名(+1名) 引き続き環境推進責任者でエコ検定未受験の者へ取得するよう促していく。
	7	CO2排出削減貢献量を、2030年までに自社排出量の100倍以上にする	エースモール：14000 t-CO2 エスパー：12000 t-CO2	・業績、売上UPによる貢献量を増やしていく	△	エースモール：10300(t-CO2) エスパー：10700(t-CO2) 達成率：80%

(凡例)	評価欄のマーク
◎ 十分に達成	(125%以上の達成率)
○ 概ね達成	(概ね100%の達成率)
△ 未達成	(75~100%の達成率)
× 大幅に未達成	(75%未満の達成率)

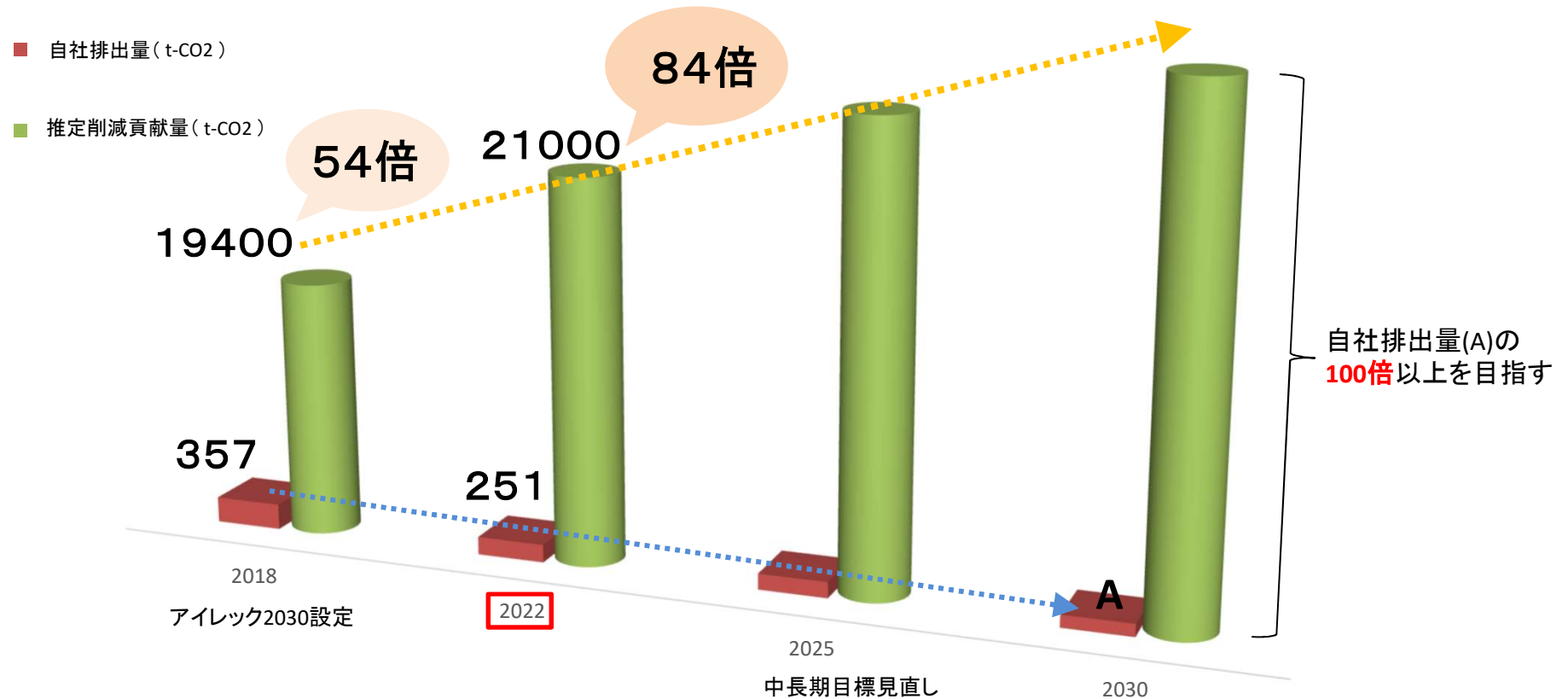
組織別 取組目標	組織名	取組目標	評価	取組結果について
	非開削推進事業本部（本店）	・打合せ時の資料電子化 ・紙の両面印刷 30%以上 NUP 印刷 8%以上 達成 ・マシンレンタル契約のWEB化	◎	・打合せ時の資料電子化 達成 ・両面率：36% 達成 ・Nアップ率：9% 達成
	設備診断再生事業本部	アイドリング時間の削減 2021年度比▲45%	◎	・2021年度のアイドリング時間が5時間26分に対し、2022年度は2時間15分と▲59%削減という結果から2022年度目標を達成したといえる。 ・一人一人が意識して取り組んだ結果、目標達成することが出来たと考えます。
	東・第一事業部	化石燃料（ガソリン）使用量 2021年度比▲20% ・遠距離現場では、極力現地でレンタカーを調達し、移動は公共交通機関を使用する。 ・2022年12月に車検切れとなる車両をEV車に変更する。	◎	2021年度 5241.57 ℓ 2022年度 2097 ℓ (ガソリン給油実績) + 356.88 ℓ (廃止車両11月末実績) + 178.44 ℓ (356.88 ℓ / 8か月 × 残4か月) = 2632.32 ℓ (▲40%) HP管充填工事等で遠距離現場は旭菱公共交通機関とレンタカーをりようしていた。また2022年12月に1台EV車を導
	東・第二事業部	エスパー調査によるCO2削減貢献量 3,000t	△	埋設物調査の当初売上計画118百万円に対して、実績が85百万円だったため、CO2削減貢献量2,290 tとなり目標の76%となった。
	企画総務部	・在宅勤務実施率 目標20% 再チャレンジ ・勤務票のペーパーレス化を全社展開 ・管理者のエコ検定取得	×~◎	・目標：在宅勤務実施率 20% 結果：企画総務部平均 11% ×未達成 実施率が低い者の仕事内容等を分析し、仕事のやり方や意識を変える必要がある。 ・目標：勤務票ペーパーレス化 結果：ペーパーレス化達成 ◎十分達成できた 2022.4月からDocuWorks化によりペーパーレス実施、 2023.3月からDreamsの機能を活用してペーパーレス全社展開（事前に全社員向けに説明会を実施） ・目標：管理者のエコ検定取得 結果：未取得 ×未達成 受検情報提供や合格対策等の取り組みが、他の業務を優先したため実施できなかった
	安全品質管理部	リモート研修等実施によるCO2排出削減に貢献する。 (目標：▲440kg-CO2)	◎	削減貢献量：▲1370kg-CO2 年末年始の安全推進期間に合わせて研修を計画し、目標を大幅に達成することができ良かった。引続き、働き方改革でもあるリモート会議を活用したい。

組織別 取組目標	組織名	取組目標	評価	取組結果について
	北海道支店	ガソリン使用量 2021年度比▲4%	×	結果：2021年度比+58% 仕事の実施場所が年度により変わるため。
	東北支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2021年度比▲5%	◎	2021：4144.08リットル 2022：2846.47リットル 削減率：68.7%【95%に対し138%】 社員全員で削減意識を共有し取り組んだ結果です。2023年度も継続して取り組みます。
	西日本営業本部 （非推本営西含む）	・エコ印刷（両面、N-up）割合の増加（2021年度比+5%） ・一般廃棄物量（シュレッター袋、SSBOX）の削減（2021年度比▲5%）	◎	・エコ印刷（両面、N-up）割合の実績 2021年度は35.2%、2022年度は38.7%であった。 ・一般廃棄物量（シュレッター袋、SSBOX）削減結果…シュレッター：2021年度は55kg、2022年度は40kg △28% SSBOX：2021年度は729kg、2022年度は271kg △63%
	東海支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2019年度比▲2% ・エコドライブの徹底、かもしれない運転、十分な車間距離確保により、安全運転&エコ運転を励行する。 ・公共交通機関の活用、遠方は公共交通機関+レンタカーの活用をする。	◎	・結果 2019°：1486ℓ 2022°：1262ℓ △15%（△224ℓ） ・エコドライブの徹底、かもしれない運転、十分な車間距離確保により、安全運転&エコ運転の励行は実施できている。 ・公共交通機関の活用
	中国支店	紙の使用枚数削減 2021年度比▲7%	△	2020.2021と減傾向であったが、 2022は新規業務で図面作成や報告書に多くの紙を費やしたことにより対2021、目標▲7%に対して、実績+10%となった。 6ヶ月は対前年を下回っており、日常的なエコ印刷・データ保存への取組は概ね浸透していると思われる
	四国支店	紙の使用枚数削減 2021年度比▲5%	△	2022年度（2021年度対比）受注（変更も含め） 約160件（1.5倍）
	九州支店	化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2021年度比▲2%	◎	2021年度実績：3723.89ℓ、2022年度実績：3220.85ℓ（2021年度比86.5%） ①近場は電動サイクル使用 ②遠方は公共機関の使用 ③社用車を使用する際は、最短ルート（ナビ推奨ルート）を設定 ④ “ ”、急発進、急停車の抑制、制限速度を遵守したエコドライブ
	非推本・第二技術部	電気使用量の削減 対前年比▲1%	△~○	【香取台】 結果：△未達成（13.6%増） 要因：不要な時間・場所での消灯の推進等に努めるも、 エースモール動力装置を稼働させた検証実験（上期）や 電気自動車導入（2台）により使用電力が増加した。 【島名】 結果：○概ね達成（1.7%減） 要因：不要な時間・場所での消灯の推進等に努めた。

中長期環境経営目標 達成状況

◆アイレック2030の目標について

2030年までにCO2削減貢献量を自社排出量の100倍以上にする ⇒2022年度 84倍を達成



◆中期目標 2020～2025年度について

・売上目標達成による削減貢献量アップを目指す ⇒2022年度は目標達成率80%、今後も引き続き実施する

(11) 次年度の取組み

【2023年度環境経営目標】

	NO	項目	数値目標	具体的な取組
全社取組目標	1	二酸化炭素排出量の削減	2019年度比2%減	
	2	電気使用量の削減	2019年度比1%減	<ul style="list-style-type: none"> ・昼、残業時等不要箇所の消灯徹底 ・クールビズ、ウォームビズの推進 ・再生可能エネルギー導入後の効果検証（つくば）
	3	ガソリンの燃費向上に取組む	2022年度比8%増	<ul style="list-style-type: none"> ・運転時はエコドライブの徹底 ・環境適合車両への更改
	4	※ 工口印刷未実施者を減らす <small>※ 月100枚以上印刷、かつ用紙削減実施率5%未満の者</small>	平均人数 17名以下を目指す	・書類保管の電子データ化の推進
	5	工口検定の取得促進	<ul style="list-style-type: none"> ・最低1名以上 合格 ・環境推進責任者の保有率100%を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・合格者の把握、共有 (2023.3現在 28名/全社)
	6	CO2排出削減貢献量を、2030年までに自社排出量の100倍以上にする	エースモール：△11500(t-CO2) エスパー：△13000(t-CO2)	・業績、売上UPによる貢献量を増やしていく

組織名	取組目標
非開削推進事業本部（本店）	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ時の資料電子化 ・紙の両面印刷 30%以上 Nアップ 印刷 8%以上 ・事務用紙使用量対前年削減率 ▲5%以上
設備診断再生事業本部	アイドリング時間の削減 “30分以上のアイドリングを0（ゼロ）”
東・第一事業部	<ul style="list-style-type: none"> ①化石燃料(ガソリン)使用量の削減 2022年度対比 5%削減(EV車除く) <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離の現場では、極力現地でレンタカーを調達し、移動は公共交通機関を使用する。 ②EV車(1台)の効率的な運用への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の充電器の電気料金支払い(2か月遅れて請求)を充電器支払管理簿で管理し走行距離との比較検討を実施する。
東・第二事業部	エスパー調査によるCO2削減貢献量 ▲4000 t -CO2
非推本・第二技術部	電気使用量の削減 対前年比▲1%
西日本営業本部（非推本営西 含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ印刷（両面、N-up）割合の増加（2022年度比+3%） ・一般廃棄物量（シュレッダー、SSBOX）の削減（2022年度比▲3%）
北海道支店	エースモール、エスパー事業 CO2削減貢献量 ▲1780 t -CO2
東北支店	化石燃料(ガソリン)使用量の削減 2022年度比▲5%
東海支店	<ul style="list-style-type: none"> 化石燃料（ガソリン）使用量の削減 2022年度比▲5% ・エコドライブの徹底、かもしれない運転、十分な車間距離確保により、安全運転&エコ運転を励行する。 ・公共交通機関の活用、遠方は公共交通機関+レンタカーの活用をする。
中国支店	<ul style="list-style-type: none"> 「ガソリンの燃費向上に取り組む」 2022年度 8%UP!! エコドライブの徹底（車間距離確保・ふんわりアクセル・アイドリングストップ）
四国支店	紙の使用枚数削減 2022年度比△5%
九州支店	用紙削減実施率を2022年度平均23%⇒28%にする。
企画総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務実施率 20% <再々チャレンジ> ・紙使用量削減 対前年の10%削減
安全品質管理部	リモート研修等実施によるCO2排出削減に貢献する。（目標：▲1430kg-CO2）

組織別取組目標

8. 地域社会との共生及び環境関連情報の公開による社内外コミュニケーション

EA21の活動を契機として、地域社会との共生・社会貢献活動及び環境関連情報の公開による社内外とのコミュニケーションを積極的に取り組む

◆社外コミュニケーション

当社ホームページにEA21に係る環境活動及び本業における環境貢献の内容を掲載

◆社内コミュニケーション

- ①朝礼や社内会議等に於ける環境活動の周知及び社内システム上のメール及び共通ファイル閲覧により「EA21」活動の周知及びフィードバックを随時実施
- ②「環境社会検定試験（eco検定）」資格取得を推奨（2023年3月時点 28名保有）

◆社会貢献活動(過去事例)

- ①節電の一環として、全社で「七タライトダウン」を実施 : 2010~2021年度
- ②月1回 本店ビル周辺の清掃活動（大江戸清掃隊） : 2012年6月~2019年度
- ③「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加 : 2017年度~2020年度



【大江戸清掃隊】



【福島ひまわり里親プロジェクト】



9. 環境関連法規の遵守【環境関連法規の違反・訴訟等の有無】

関係法令	対象期間	該当する企業活動	遵守する事項	取組結果の評価	今後の取組み
・廃棄物処理法 ・建設リサイクル法 ・水質汚濁防止法 ・浄化槽法 ・有機溶剤中毒予防規則 ・PRTR法 ・消防法	2022年4月 ~ 2023年3月	(1) 産業廃棄物の排出	①廃掃法：産業廃棄物の適正処理委託・関係書類保管・マニフェスト発行管理・産業廃棄物管理票交付状況報告	○	引き続き環境関連法令の遵守に努める
			②建設リ法：特定建設資材廃棄物（コンクリート、Asコンクリート、木材）の再資源化	○	
		(2) 建設現場、工場における水質汚濁防止	①建設現場での濁水流出防止	該当工事なし	
			②事故等緊急事態時の措置	事故なし	
		(3) 化学物質の使用	①SDS（化学物質安全データシート）及びVOCの確認（PRTR法、大気汚染防止法、安衛法、有機溶剤中毒予防規則）	○	
			②PRTR法第1種指定物質の種類及び使用数量等確認【シンナー（トルエン等）】	水性塗料に移行済のため該当なし	
		(4) 可燃物の使用及び保管（軽油等）	消防法（少量危険物貯蔵取り扱い）	○	

◆活動を開始した2010年～2023年3月まで環境法令に関する違反及び訴訟はありません。

◆関係当局からの違反などの指摘、地域からの苦情等もありません。

10. 代表者による評価と見直し・指示

項目	変更	指示事項等	環境管理責任者の対応	
			実施日	内容
1.環境経営方針	有	当社の事業を通じた活動をより明確化	2023.6.30	今後、当社の事業サービスを提供しながら環境活動に貢献できる目標の見直しと社員へ水平展開できるようにしていく。
2.環境経営目標	無	今後、より実践的な事業成果に基づく目標にシフト	同上	
3.実施計画	無	継続実施	同上	継続実施
4.仕組み	無	内部監査体制の検討	同上	内部監査体制の見直しを実施する。
5.全体評価		<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営目標については達成しており、概ね環境経営がなされている。 ・事業活動成果を通じて環境保護活動に貢献していくよう本システムの継続的な改善をおこなう。 ・達成状況や成功事例及び課題について社内周知を図り、継続した取り組みに資する。 		

環境経営レポート

2023年10月3日

アイレック技建株式会社

〒111-0034 東京都台東区雷門1-4-4 ネクストサイト浅草ビル

(問い合わせ先)

E M S事務局 airec_ems@airec.co.jp